

# 中学校国語科における 読む力を高めるための古典指導の工夫

—「ペア音読」をもとにした「ブックトーク」への取組を通して—

特別研修員 国語 橋本淳一（中学校教諭）

## 生徒の実態

- ・古典への漠然とした苦手意識や不安感
- ・歴史的仮名遣いや古典独特の語句などへの苦手意識
- ・内容を読み味わうに至らない

「古典の作品も味わい深いんだ！」

「もっと読みたい!」「古典大好き!」

手立て1 「ペア音読」を用いて、  
音声から物語の世界を読み味わわせる。

手立て2 「ブックトーク的手法による交流」を通して、  
読み取った魅力を他者に伝えさせる。

## 手立て2 『ブックトーク』



「ブックトーク」で、  
読解した作品主題とその概要をまとめ、発表するという目的意識を持たせる。作品の魅力  
をより伝えたいという意欲のもと、読解する。

二つの手立てによる  
単元構想で  
読む力を引き出す!



②ブックトークに  
まとめ、伝え合う活動

①ペア音読による読解

## 手立て1 『ペア音読』

音読の仕方を工夫しながら繰り返し読む。  
叙述や情景の描写に注意して読解する。



ペア音読で読み取った叙述や  
情景の描写を生かして、  
作品のよさが伝わりやすい  
ブックトーク原稿をつくろう。

2ペア分のブックトーク原稿を1枚にまとめたワークシート。  
～両者と比較・検討しながら、さらに読解を深めました。～



直接、書き込みをさせ、この  
ままブックトークの発表原稿  
にできるようにする。

2ペアで  
練り直して  
より良いものに  
してみよう!

互いのブックトークの相違  
点や、発表に生かしたい部分  
にラインマーカーを引く。



## 〔成果と課題〕

### 成果

- ブックトークを作成するという目的意識を持つことにより、場面の展開や登場人物の描写などに注意しながら、作品の魅力を手動的に読み取ることができた。
- 古典作品でも、現代文と同様に、現代に生きる自分たちとのものの見方の異同などについて自分の考えを持つことができた。

○ブックトーク作成の段階でも、本文の叙述に立ち戻って読解を再確認しながら読ませることが肝要である。

○ブックトークの交流の場で多様な読みに気付かせた後、ペアや個での思考に戻し、一層の読解の深まりにつなげる問い返しができること、より効果的である。

### 課題